

松浦のり子

湧き水

心が乾いてささくれる日は
ていねいに支度をしましう 晩ごはん
湯気立つ鍋の傍らで 塩梅を尋ね降りていく
観て 聴いて 刻んでゆくその深くに
わたしを潤す水はある

包容

コップに一杯の水
抱きしめているのはコップでしょうか いいえ
あんた達の用事をしなさいと
会に行けない詫びの電話に 年老いた父母の言う如く
器のかたちのそのままに 何も求めぬ水の包容